神戸新聞NEXT

ヤマトタケルの「石のタライ」　加古川で移転議論

ヤマトタケルの産湯に使われたと伝わる「石のタライ」。住宅地の一角に置かれている＝加古川市加古川町美乃利

拡大

古代神話の英雄、ヤマトタケルが誕生した際に産湯に使われたと伝わる「石のタライ」。兵庫県加古川市加古川町美乃利の住宅街にあり、市が日岡山公園周辺の再整備計画を掲げる中、日岡神社や日岡御陵などゆかりの資源と一体的な管理、ＰＲを望む市民の意見が浮上している。関係者らの間では移転を望む議論があるが、地元では土地開発を経ても保存してきた経緯があり、移転案に反発する声もある。（安藤文暁）

民家の庭をえぐるように柵が囲み、二つの石が雨ざらしになっている。市教育委員会の立て札には「約２５メートル東に１０メートルほどの距離をおいて置かれていた」と記される。

住民らによると、かつては田んぼにあったが、昭和４０～５０年代の区画整理で開発業者が撤去。慌てた市民の動きもあり、業者が保存用の土地を確保し、市が引き取ったという。

「伝承は祖父からも聞いてきた。文化財の指定はなくても地元の歴史資産だ」と田んぼの所有家だった男性（８７）が語る。一方、神社側は、神社の土地が美乃利地区にあったという戦前の記録から、石を祭った場所が崩れて田んぼになったか、周りを囲む田んぼに石が落ちたか、とみる。

移転議論は過去にも何度かあった。今回は、市が日岡山公園周辺をにぎわい拠点とする計画を進める中、神話を生かした観光振興を掲げる市民らが今月１１日に一般社団法人を結成し、議論は再燃しそうだという。

石のタライは、氷丘地区出身の稲日大郎姫命（いなびのおおいらつめのみこと）がヤマトタケルを産んだ際に使ったとされる。母を祭る「日岡御陵」が日岡山公園にあるほか、日岡神社が安産祈願とされる由縁になっている。

「石のタライを見ようと、遠方から間違えて神社に来る人も多い。機運が盛り上がる中、境

内への移転をお願いしたい」と日岡幾朗宮司。ただ、市教委の担当者は「田んぼの所有者から譲り受けたという事情もある。具体的な陳情もない今の段階では動きようがない」と慎重な構えだ。